



一貫コース通信

大学入試から学べる事

高校3年生は今まさに真剣勝負の渦中に在ります。大学受験は単なる教科科目の勉強では在りません。言うまでもなく、これから先の自分の人生を決定づける戦いです。更には、如何に自分の実力を発揮出来るかを問う、そのヒトの総合力を測る公平な競技と言って良いかも知れないし、合否は18年間生きて来た自分の履歴書(証)と見る事も出来るのではないのでしょうか。だからこそ、広く社会でも学習歴を重んじ、そのヒトの根拠とするのです。

大学入試は公平を旨とするので、不正は絶対に許されません。共通テストともなれば、同じ時間に49万人もの受験生が同科目の問題と格闘を繰り広げます。その結果が客観的な指標と成り、嫌が上でも数字で示されます。世の常として公平とはある意味厳しいのです。初めに、信頼できる調査機関のデータから、本県の実情を都道府県数に対する本県順位で確認します。7教科総合は35位・5-7型理系は43位・英語(R+L)45位・国語42位・数学I43位・同IA41位・同IIB43位・物理42位・化学39位・地理23位等40台が目白押しです。これが本県の実力です。この事実をどの様に捉えたら良いか、教育以外の分野のヒトにどう映るか、正直言うととても心配です。諦めてしまうのではないかと。

思うに、元々福島県人だからと言って、学習能力が劣る訳ではありません。何故なら、学力は、先天的能力ではないからです。飽くまでも後天的なモノで在り、努力で変えられるモノです。所が、学力ばかりではなく、人事総てに通じますが、結果を想定し事前に準備万端まで積み上げる事が、とても難しいのです。更に言うとな出来ないヒトが多いのです。

“後悔先に立たず”、と言う戒めの俚諺^{りげん}がある様に、何かにつけ後悔して居るヒトは山ほど居ます。特に勉強に於いては尚更です。若い勉強に専念できる時に、勉強しないと必ず後悔します。世に名門と名乗る学校が数多在りますが、学校が教育して名門であるケースは意外に少ないのです。ただ、そこに集う生徒がとても賢く、環境のみ在るケースが多いのです。ここで言う賢いとは、自立(自律)して言い訳しない、相手を尊重し互いに認め合い、意欲が旺盛な事です。この人達の特徴は、責任逃れの発言を殆どしない事です。こういうヒトは、結果的に学業成績が著しく伸びます。勿論、今回の共通テストの結果も良好です。

話題を変えますが、国公立大学や私立大学の試験に先駆け実施された、文科省所轄外大学校の結果が出て来ています。例えば防衛省管轄では、防衛医科大学医学部に先輩達は3名最終合格しました。(参考までに福島県・宮城県共に合格者は3名でした。)因みに、昨年灘高校は17名で開成高校は13名でした。両校とも6年前の小学生では、全国最上位数%以内の人達です。しかし…、ヒトの努力は常識をも塗り替えます。成蹊の学びで追いつき、しかも追い抜いて居る事実を、この数値から推測出来ます。“論より証拠”とは良く言ったもので、事実根差した努力を継続して参りましょう。

